

元英国外交官チャールズ ル ガイ イ トン (5/6)

:

明:

哲学者/作家による真の探求は、信仰と行を和せんがための恒常的な葛藤にまされました。第5部: カイロでの仕事。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 著名人](#)

より: ガイ イ トン

日 22 Oct 2012

集日 22 Oct 2012

彼は正しかったのです。私自身も、マイヤズのと看、そしてそれ以降も多くの会でした、理念をにき留めるといふ著者としての行と、の人生活における人とのギャップといふ、人性における大いなる矛盾に直面したです。イスラムによる目的の一つに、性格におけるなる要素における完全なバランスを成し、それらを同一の真っ直ぐな道の上をませるために同じ方向を向かせ、お互いをさせるといふものがあります。西洋においては、全くバランスが取れておらず、他の全ての面を牲にして人格の一面のみをさせている人々を目にするのは珍しいことではありません。英知についてったりいたりすることは、その成に取って代わるものではないと私はづきはじめました。そういったことをったりいたりする人々は、その内容について真であることから、そのこと自体は必ずしも善とは言えないでしょう。つまり、それは彼らの中の最も良き部分を表しているのであり、彼ら自信がそれにふさわしいとは限らないといふことなのです。

2年半、家庭から私は英国に国しました。私の著作をんで手を出してくれた人々の中には、ゲノンの著作に精通し、彼を通してイスラムに改宗した二人の男性がいました。私はロンドンで彼らに会いましたが、彼らは私が探し求めているものは、インドや中

国ではなく、あなたの身近に、そしてアブラハムの 中にあるのだと りました。そして私自身が 道することをいつ 践し、「精神的な道」を み始めるつもりなのかと ねてきました。彼らは やかに、且つ 固として、私がすでに理 上は知っていることを自らの人生に 用すべき が来たのだ、と言うのです。私は 世的冒 の可能性が尽きる老年期までは彼らのアドバイスに うつもりはなかったのに、 切に、且つつかまえどころのない受けえをしましたが、それ以降、より 心深くイスラ ムについて するようにはなりました。

この 心は、事 に中 で くことによってイスラ ムに する い偏 を育てていた私の 友の不承を招きました。この「粗野な宗教」が精神的な面を有するという概念は、彼にとってあり得ないことでした。それは せかけの形式主 、非合理的な禁忌への盲目的追 、礼 のり返し、偏屈な 迷さ、そして 善以外の何でもないと彼は私に保 しました。彼は私を 信させるために、ムスリムによる 践例のいくつかを述べました。その中で私が えているものは、病院で死の床にある若い女性が、マッカの方角を向いて死ぬことの出来るよう、苦しみながらも起き上がって最 の力を振り り、ベッドの方向を えたというものが ありました。私の友は、彼女の「愚かな迷信」のために自らを苦しめてまでそうさせた行 にひどく胸をむかつかせていました。しかし、私には逆にそれが素晴らしい逸 にこえました。私が想像し得るいかなる精神状 をも遥かに るその女性の信仰心に、私は心打たれたのです。

当 は にも就けず、ひもじい暮らしをしていました。私はカイロ大学の英文学の助教授を含め、求人があったほぼすべての に 募しました。そのときは 鹿げたことをしたものだ、と自分でも思っていました。私はケンブリッジ大学で 史の学位を取ったのであり、19世 以前の文学については何も知らなかったのです。どうして、 格の私を彼らが雇おうというのでしょうか？ しかし、彼らは 考の末に私を雇ったのです。1950年の10月、私が29 のとき、イスラ ムへの 心が根を生やしていた丁度その 、私はカイロへと旅だちました。

私の同僚には、エジプトに居を えていたマ ティン リングスという英国人ムスリムがいました。彼はゲノンの友人、また私がロンドンで した二人のムスリムの友人でもあり、私がそれまで会ったことのある とも全く なる人物でした。彼は、私がそれまで理 上

のみ存在すると思ひ描いていたものの生きた化身で、私は遂に 存するそれとめぐり逢うことが出来たのです。彼は郊外の 的住居に住んでおり、 のようにリングス夫妻を れることは、近代的カイロの喧 からの を超越した逃げ であり、そこでは内面と外面が分け隔てられることもなく、私が れ しんだ世界の とされるものは、 のような薄い存在だったのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/163>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。